

## 後援会事業実施報告書

佐々木 啓

歴史・考古学メジャーの日本近現代史ゼミでは、毎年夏季休暇中に、日本国内の史跡や博物館の見学を中心とした「ゼミ合宿」を行っています。日本全国に残る近現代史の史跡や博物館等での展示内容を、時間をかけて見て回ることで、通常の授業ではなかなかできない、歴史の“現場”を学ぶことができる、貴重な機会となっています。2023年度は、9月19日から22日の日程で、長崎県長崎市および佐世保市で合宿を行いました。参加者は、ゼミ担当教員1名と、4年生10名、3年生6名の、合計17名でした。

合宿初日（9月19日）は、午後3時に長崎駅に集合し、ホテルに荷物を置いた後、出島を見学し、近世から近代にかけての対外交流の歴史について学びを深めました。

2日目（9月20日）は、朝から高速バスに乗って佐世保市内に向かい、海上自衛隊佐世保資料館や凱旋記念館を見学し、海軍の街としての佐世保の地域史について学びました。昼食は、「佐世保バーガー」や「レモンステーキ」など、佐世保の戦後史にかかわるものを各自で食べ、長崎市に戻りました。

3日目（9月21日）は、本来であれば、端島（軍艦島）を見学する予定だったのですが、天候不良のためかないませんでしたので、午前中は市内にある長崎歴史文化博物館を見学し、長崎の地域史について詳しく学びました。その後、新地中華街で昼食をとり、午後は、グラバー園と大浦天主堂を見学し、思案橋の居酒屋で懇親会を開きました。

4日目（9月22日）は、長崎平和公園周辺を散策し、戦争遺跡について調査した後、浦上天主堂と長崎原爆資料館を見学し、原爆の被害の実態について学びました。その後、お昼にはホテルに戻り、全体のまとめをして解散しました。

天候不良の影響で、一部計画を変更するかたちになりましたが、長崎周辺の歴史や史跡について、学びを深めることができましたと思います。準備から実行まで学生主体で行い、それぞれの見学場所で一緒に行動するなかで、ゼミ生相互の交流を深めることもできたのではないかと思います。ご支援をいただいた人文社会科学部後援会に、改めてお礼申し上げます。

以 上





